

地域の理科教育力向上を目指した 附属・学部連携による教員研修モデルの構築と実践

－「理科授業づくりの会」のシステムと教材・教具開発－

○鎌田潤一^A，河村美成^B，伊藤正統^A，有富純子^A，和泉研二^C

KAMADA Junichi, KAWAMURA Yoshinari, ITO Masanori, ARIDOMI Junko, WAIZUMI Kenji
山口大学教育学部附属光小学校^A，元山口大学教育学部附属光小学校^B，山口大学教育学部^C

【キーワード】 地域貢献，授業づくり，教材・教具開発，問題解決

1 研究の目的

学習指導要領改定により，理数教育の充実が掲げられているにもかかわらず，理科を重視する動きは，国語科や算数科に比べると少ない。そのことは，本校が開催している研究発表大会や，「授業について語り合う会」の参加状況を見ても明らかである。

本校の取組は，先進的な提案性を求められているため，理科を一から学びたいという教員のニーズに応えられていない。そこで，本校理科室が改修されたのを機会に，「理科授業づくりの会」（以下本会）を立ち上げた。理科の指導経験が浅い，或いは苦手としている教員を対象に，講義と演習を交えた実践的な研修会を行うことで，理科教育の底上げを図ることをねらいとしたのである。

2 研究の内容

(1) 山口大学及び教育委員会との連携

本会は，山口大学教育学部やちやぶ台理科ネット（同学部）より，運営費の面で支援を受けているため，参加者から会費を徴収していない。また，山口県教育委員会の後援により，広報活動の面で支援を受けている。

(2) 活動内容

平成 24 年度は年間 5 回，平成 25，26 年度は年間 6 回，土曜日の午前中に実施している。

『公立学校で使える提案』の理念の下，各学年で扱う学習内容はほぼ全部取り上げている。教科書にある観察，実験の演習の他，効果的と思われる手作り教材・教具や，問題解決における子どもの様子などを紹介している。

(3) 実践の実際

ア 月と星（4 年）

星座早見は便利な道具だが，平面であるため星の位置関係をとらえにくい。そこで，筆者が

考案した立体星座早見（図 1）を作成し，その効果についての意見を交流した。

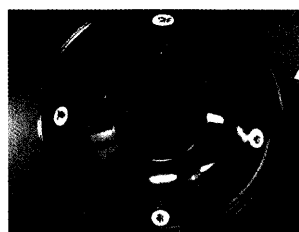


図 1 立体星座早見

参加者の感想
星座早見では，夜空を立体的にとらえられない子どもに有効だと思いました。

イ 土地のつくりと変化（6 年）

旧熊毛郡に，図 2 の地層がある。この地層のでき方について 4 コマ漫画に表現させた実践を，参加者にも取り組んでもらった。層や断層ができた時期を考えながら漫画をつくり，互いに見せ合いながら説明するなど，子どもの立場に立って推論する楽しさを感じてもらうことができた。



図 2 断層のある地層

3 研究のまとめ

毎年，のべ 80 名近くの参加者があり，アンケートの結果を見ても，当初の目的を達成できている。中には，本会で得たヒントを自校で実践し，本会で紹介するという教員もいた。

来年度は，山口県教育委員会が主催する初任者研修講座の一部を担うことが決定した。今後も，理科教育の底上げをめざしていきたい。

参考文献

鎌田潤一ほか 4 名 (2013, 2014) 『教員のニーズに応じた研修の在り方についての研究－「理科授業づくりの会」の活動を通して－』山口大学教育学部附属教育実践センター研究紀要第 35 号，学部・附属教育実践研究紀要 13 号